

心理学概論A 2018～			科目コード	FA2531
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	1 年以上	佐藤 俊人	

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学した方は、本科目とあわせて p. 29 「心理学概論B」(科目コード: FA2532、2 単位、履修方法: RorSR) も参照してください。

科目の概要

■科目の内容

心理学の基礎を学び、自分や他者の心を理解することは日常生活の多くの場面で有効なものです。

心理学の研究対象になっている諸現象の基本について概観しながら「人間らしさ」を考え、心理学的な現象がいかに日常生活に関連しているかを学びます。研究をはじめて間もない方にとっては心理学の全体像をイメージしていただき、また、すでに研究が進んでいる方にとっては、その再確認をしていただくことをめざします。教科書・レポート学習では基礎的な理論を学び、スクーリングでは心理学諸理論をどう日常生活と関連づけて考えるかを学びます。

■到達目標

- 1) 心理学を実学ととらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。
- 2) 心理学の成り立ちをや人の心の基本的な仕組みと働きを、具体例を挙げながら説明できる。

■教科書(「心理学概論B」と共通)

金城辰夫監修、藤岡新治・山上精次編『図説 現代心理学入門(四訂版)』培風館、2016年(四訂版でなくても可)

(最近の教科書変更時期) 2016年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を持参してください。主に図表の参照として使用します。

■履修登録条件

この科目は、「心理学概論B」と同時に履修登録が必要です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価or科目修了試験50%

■参考図書

小泉吉宏著『なやんでもいいよとブッタは、いった。』KADOKAWA、2014年

※教科書各章末の「参考図書」も使えるものがあるかもしれません。

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	心理学とはどのような学問か	心理学とはどのような学問で、どういう方法で心を知ろうとしているのかについて、心理学の成り立ちと関連づけながら学ぶ。
2	心の構造①（精神分析的な視点から）	フロイトの人格論の概要について学ぶ。
3	心の構造②	フロイトの発達論の概要と、実際の乳幼児の発達の様相を比較検討。
4	日常生活の中の学習理論①	古典的条件づけの基本について学ぶ。
5	日常生活の中の学習理論②	古典的条件づけの応用可能性について学ぶ。
6	日常生活の中の学習理論③	オペラント条件付けの基本とその有用性、危険性を学ぶ。
7	スクーリング試験※	

※連続で「心理学概論B」も受講する方は、「心理学概論A」でのスクーリング試験はありません。「心理学概論B」の最終コマに2科目分の試験を受験します。

■講義の進め方

配付資料をもとに板書も行いながら進めます。視聴覚教材も視聴します。教科書は主として図表の確認のために使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリングで取り上げた心理学理論を実学としてどう応用するかを考えていただきます。

「知識」ではなく、それをどう活かしていくかという「知恵」が要求されます。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テキストの該当箇所を読んでくると同時に、現在の自分の活動の中でどのような部分で心理学的な理論や考え方が応用できそうかを考えておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ		学習内容	学びのポイント
1	心理学とは (p. 1～4)		心理学とは何を目的としたどのような学問であるかを理解するとともに、心理学の歴史と諸領域について理解する。	心理学では、どのような目的のためにどのような手法を使ってどのような情報を収集するのか、そしてどのような領域に分類されているのかを理解しておくことにより、心理学全体のイメージがわかりやすくなります。
2	パーソナリティと適応 (臨床心理学) 1 パーソナリティの諸理論 (p. 35～42) 第1部2章2. 1	①	さまざまなパーソナリティ理論について理解する。	心理検査によってパーソナリティを測定することは心理学の課題の一つですが、測定されるべきパーソナリティについて理解することにより、次に学習する心理検査の理解がスムーズになります。パーソナリティの理論には様々なものがあり、それぞれ難解なものです。必要に応じてテキスト以外の情報を得ながら、時間をかけてゆっくりと理解してください。
3		②		
4		③		
5	パーソナリティと適応 (臨床心理学) 2 心理テスト (p. 42～50) 第1部2章2. 2	①	心理アセスメントで使われる心理テストの全体像を理解する。	心理検査には、性格検査、知能検査その他様々な目的の検査があり、その中でも質問紙法、作業検査法、投影法などの手法にわかれています。これら心理検査の基本を学ぶことにより、心理検査の長所と短所を自分なりに考えてみてください。
6		②		
7	学習と動機づけ・情動 (行動心理学) 1 古典的条件づけ (p. 101～108) 第II部4章4. 1	①	心理学における「学習」とはどのようなものかを理解する。その基本的な学習理論である古典的条件づけについて正しく理解する。	レモンを見ただけで、食べてもいないのに唾液が出ます。どうしてこのような現象が起こるのでしょうか。また、この現象を私たちの日常生活に応用するにはどうしたらいいのでしょうか。様々な生理的反応を考え、古典的条件づけの応用性について考えてみましょう。
8		②		
9	学習と動機づけ・情動 (行動心理学) 2 オペラント条件づけ (p. 108～p114) 第II部4章4. 1	①	オペラント条件づけに関する古典的な実験を知ることにより、オペラント条件づけのしくみと、その長所、短所を理解する。	私たちは日常的に「いいことをしたら賞」を、「悪いことには罰」を与える、与えられることに慣れてしています。オペラント条件づけを正しく理解することにより、賞罰の与え方、その危険性などについて考えてみましょう。
10		②		
11	記憶・言語・思考 (認知心理学 I) 1 記憶 (p. 125～138) 第III部5章5. 1	①	記憶の種類や特徴について理解するとともに、新しい課題に直面した時に人間や動物はどのようにそれを解決するのかについての諸理論を理解する。	私たちは、新しい課題を解決するために様々な方法をとっています。やみくもにやってみることもあれば、こうすればできるはずという、見通しを立てることもあります。
12		②		

回数	テーマ		学習内容	学びのポイント
13	感覚・知覚（認知心理学Ⅰ） （p. 153～177）	①	感覚器から入ってくる情報を、私たちは脳で解釈（認知）して判断している。人間の認知が決して現実、事実をそのまま受け取っているわけではないことを理解する。	感覚器から同じ情報を受け取っても、その理解は一人ひとり違います。それぞれの脳で自分らしく判断しているということを理解しましょう。
14	第Ⅳ部 6章 6.1～6.6	②		
15	まとめ 心理的支援の方法の立案		心理的支援のプログラムを提案する	身の回りで心理的に支援を必要としている事例を具体的に探してみて、具体的にどのようなプログラムを提案できそうかを考えてみてください。そしてそのプログラムはどのような心理学的理論に関連しているものなのかを確認しながら考えることが必要です。なお、実際に心理的支援を行う必要はありません。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	スキナーによる「道具的条件づけ（オペラント条件づけ）」とはどのようなものかを具体例を挙げながら概説するとともに、自分や周囲の人など身近な経験に照らし合わせながら、道具的条件づけによって他者の行動をコントロールすることの長所と短所を自分なりに考えなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2 単位め アドバイス

人間は社会的な動物であり、常にお互いに影響し合っていますが、お互いの間に「ある側面でどちらかが優位」という関係になった場合、優位に立つ側が他者の行動をコントロールしようとし始めます。その最も簡単な方法の一つが「やって欲しい行動をしてくれた場合」には賞を与え、「やってほしくない行動をした場合」は罰を与えるということで、おそらく人間が人間になった大昔から行われてきました。家庭の中でも悪いことや危ないことをした子どもを叱り（罰を与え）、良い行動をした子どもにご褒美をあげたりほめたりすることは、心理学を知らなくとも誰でもやっていることです。

つまり道具的条件づけ（四訂版 p. 108～114 三訂版 p. 100～105 改訂版 p. 14～16）という方法は、決して心理学者が発明したものではなく、誰もが日常的にやっている他者コントロールの方法です。

まず、その長所を考える場合は、なぜ私たちは「賞と罰」を自然に使ってしまうのか、を考えても

いいと思います。あるいはもしも「賞と罰」を使わずに他者の行動をコントロールするとしたら、どのような方法があるか、を考えてみると、おのずと長所（なぜ使いやすいのか、なぜつい使ってしまうのか）が明らかになってくるかもしれません。

しかし、一方では自分が罰を与えられた経験を振り返ってみると、短所もあることも見えてくるはずで
す。スピード違反をしてお金を納付するのも「罰」ですし、言うことを聞かずに親に「ゴツン」とやられ
たのも罰です。その直後は反省したり、行動としては一瞬おとなしくなったりしたとは思いますが、それ
は「考え方や行動の様式が変わった」と言えるでしょうか？ おそらく3日もたてばもとの行動に戻って
いたのではないかと思います。

このような視点も参考に、道具的条件づけの長所と短所を皆さんなりに考えてみてください。

科目修了試験

■評価基準

テキストに書いてあることの暗記～再生では不足です。それを自分なりに理解し、自分のことばに噛み
砕いて説明することにより、本当に理解していることを表現してください。